

交運労協

「第28回交通運輸政策研究集会」



5月23日、交運労協「第28回交通運輸政策研究集会〈「2024年問題」の課題解決にむけて～物流クライシスをいかに乗り越えるか～〉」が開催され、物流に携わるJR貨物労組・JR貨物労連の仲間と共に参加してきました。

冒頭、交運労協を代表し住野議長より「物流は経済を支える重要な産業である。交運労協として『2024年問題』に対して様々な観点からの課題解決にむけて取り組んでいく」と挨拶がされました。

基調講演では、国土交通省総合政策局：平澤崇裕物流政策課長より「『2024年問題』に対する国の取り組みについて」、立教大学経済学部：首藤若菜教授より「物流クライシスを乗り越えるために」と題した講演を受けました。

その後のパネルディスカッションでは、トラックドライバーの厳しい労働実態、高齢化や人手不足など、現状と課題について述べられ、国内の物流を維持していくためには、鉄道貨物輸送の役割が重要になるとの認識が示され、各輸送モードのスムーズな連携のための条件整備など、多岐にわたる課題の解決にむけて、交運労協は各構成組織と連携して取り組んでいくことが確認されました。

JR総連は、物流を取り巻く課題の解決にむけて、交運労協をはじめして課題を共有する構成組織の仲間、JR総連各単組・労連の仲間と連携し、取り組みを進めていきます！